

支出書

01-001

(1/2)

日付	令和 6 年 6 月 25 日	支出額	104,850 円
項目	調査研究費	充当額	104,850 円
細目	出張旅費	按分率	
支払先	別添のとおり		
摘要	7 月 3 日から 5 日尼崎市、十日町市、金沢市		
備考			

支出書

01-001

(2/2)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう 1 枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2024年6月25日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

¥104,850

但、7月3日～5日尼崎市・土
日町市・金沢市出張旅費

[内 訳]

上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	65,950円	
日 当	9,300円	3日
宿 泊 料	29,600円	2泊
()		

(会派名) 誠友会

(名 前) 能宗正洋



領収書 No.

(-)

研究研修・調査報告書

会 派 名	誠 友 会	報 告 日	令和 6 年 7 月 9 日
代 表 者	稲葉誠一郎 	報 告 者	能宗正洋 
参 加 者	能宗正洋		
実 施 日	令和 6 年 7 月 3 日(水)～5 日(金)		
研究研修・調査等の場所	兵庫県尼崎市 阪神尼崎駅西口 新潟県十日町市 エコクリーンセンター他 石川県金沢市 石川県立図書館		
目 的	・ 尼崎市 駅周辺の特色を活かしたまちづくりの推進について ・ 十日町市 使用済み紙おむつの燃料化実証実験について ・ 金沢市 石川県立図書館の施設見学について		

◇日時

7月3日(水) 10:30～12:00

◇場所

尼崎市阪神尼崎駅西口「駅周辺の特色を活かしたまちづくりの推進」

7月4日(木)13:00～14:30

新潟県十日町市「使用済み紙おむつの燃料化実証実験」

7月5日(金)11:30～12:30

石川県金沢市「石川県立図書館施設見学」

◇内容、まとめ

・ 7/3(水) 10:30～12:00

・ 駅周辺の特色を活かしたまちづくりの推進について

・ 対応者 尼崎市議会事務局 福島

都市整備局都市戦略推進担当 渋谷課長・坂本係長

尼崎市は、面積 50.71 km²、人口 453.811 人(4/1 現在)とコンパクトな市域に都市機能が集積している。東西には、国道 2 号、国道 43 号並びに名神高速道路と阪神高速神戸線及び阪神高速港湾線の道路が整備されている。

また、JR・阪急・阪神 3 社による 13 の鉄道駅があり、大阪・神戸へのアクセスも良い。さらには市内に 340 を超える都市公園がある。

これら、既存の資源を活かし、多様な主体と連携した新たなにぎわいづくりを行うとともに、民間の更なる投資を呼び込む工夫をしている。加えて、鉄道駅周辺エリアの特色を活かして、公園や駅前広場などを活用した交流・滞在空間を創出するなど魅力向上につなげ、若者や女性をいかに集めるかを大きな目的として、住んでみたいと選ばれるまちを推進されている。

特に、市域南部(阪神沿線)の取組が多くなっている。その中で、**阪神尼崎駅西口北側の中央公園及び駅東南の尼崎城址公園などエリア全体を俯瞰したにぎわい創出を、P-PFI 方式でなく、「包括的管理」(指定管理+業務委託)を令和 4 年度から実施されている。**

「包括管理」

※指定管理

- ・ 中央公園・・・1.5ha の内約 0.5ha は、都市再生特別措置法による都市公園リノベーション制度を活用され、民間事業者との協働で、魅力ある駅前空間として令和 7 年 3 月リニューアルオープン予定で工事中。

リニューアルは、「芝生広場」「テラス広場」「木立の広場」の 3 つのゾーンに分け、若者や子育て世代など、幅広い利用者層がそれぞれ思い思いに憩い楽しめる心地よい広がりのある滞在空間を創出しようとされている。

- ・ 阪神尼崎駅北駐輪場
- ・ 阪神尼崎駅西駐輪場
- ・ 庄下川東広場
- ・ 尼崎城址公園
- ・ 城内地区駐車場
- ・ 阪神尼崎駅前駐車場

※管理委託

- ・ 観光案内所
- ・ 駅前広場(北)
- ・ 駅前広場(南)

- ・ 庄下川歩行者専用道路
- ・ 立体遊歩道 1 号・2 号
- ・ 西大物公園

※その他のにぎわい創出への取組として

- ・ 「あまピク」・・・地域で活動する人が中心となるマルシェの開催や芝生広場の有効活用などを目的に、公園自体での楽しみ方を知るきっかけづくり
- ・ 「尼涼祭」・・・残暑が厳しい時期に「涼」をテーマに駅の南北にある中央公園と城址公園などを一体で開催し、エリア内回遊のきっかけづくりや滞在時間の増加を図っている

※他の駅周辺における取組

- ・ 阪急園田駅・・・駅前広場の再整備
- ・ 阪急塚口駅・・・はんつかパブリックハック宣言
居心地よく歩きたくなる駅前空間をめざし、使いたくなる駅前広場への改良事業を実施している

※情報発信の取組

- ① 尼崎に住むための情報サイトで AMANISM(アマニスム)
イベント情報発信
- ② あまのうわさプロジェクト
青森県八戸市を参考にした、エリアの特色(うわさ)を広報することにより
エリアブランディングを推進している

[参考]

※ 指定管理料及び管理委託料 246,300 千円/令和 5 年度

※ 指定管理者に期待する事項(ユニーク)

管理業務とは別に、阪神尼崎駅周辺公共施設の全体に関して

- ① 広域エリアの長期的な活性化まで見据えて管理業務を実施すること
- ② にぎわいづくりにあたっては一過性のものとならないよう工夫すること
- ③ 自主事業や維持管理の効率化に民間ノウハウを発揮し自主財源の獲得に努め、先は近接エリアに還元すること
- ④ 民間の投資を呼び込み、広域エリアの価値向上につなげていくことまで意識すること

◇まとめ

今回の阪神尼崎駅周辺の特色を活かしたまちづくりの推進は、本市の駅前再開発事業にも大いに参考になる点がありました。
今後、都市整備特別委員会等の場で、今視察内容の提言をしたいと考えます。

・ 7/4(木) 13:00～14:30

・ 新潟県十日町市「使用済み紙おむつの燃料化実証実験」～再生可能エネルギー創出の取組～ について

- ・ 対応者 十日町市事務局 星名
十日町市環境エネルギー部 尾身環境衛生課長
エネルギー政策係 伊藤主任技師・茂野主事

十日町市は、新潟県南部の長野県との県境に位置し、面積 約 590 km² 人口 47,600 人。毎年、2m を超える積雪で全国有数の豪雪地帯。(除雪費用:29～14 億円/年)

平成 26 年度から市内の福祉施設(や、保育園)から回収した使用済み紙おむつをペレット燃料化し、福祉施設等において熱エネルギーとして利用している。いわゆる、資源の循環と地産地消を実現する取組で、国内では鳥取県伯耆市に続く 2 例目となる。

事業説明後、現地視察

- ① 紙おむつ燃料化施設視察・・・十日町市エコクリーンセンター内
- ② バイオマスボイラー施設視察・・・(福)十日町福祉会 三好園しんざ内

◇運営事業者 社会福祉法人 十日町福祉会

◇事業期間 令和 2 年 4 月 10 日から令和 17 年 3 月 31 日 15 年間
現在実証期間 4 年目

◇事業費 約 2.6 億円 (内、国庫補助金 1 億円)

◇事業契約の内容

- ・ 市は、ボイラーほか熱利用設備を含む使用済み紙おむつの燃料化実証施設を整備
- ・ 運営事業者は、使用済み紙おむつを回収し、実証施設でペレット燃料を製造
- ・ 熱利用事業者は、使用済み紙おむつの供給と事業者施設に設置した給湯用バイオマスボイラーでペレット燃料を利用
- ・ 事業者は、契約に基づき紙おむつ製造施設の使用料を負担
- ・ ごみ焼却熱の回収ボイラーの安定燃焼、ペレット消費量、化石燃料の削減量などをモニタリングする

◇事業内容

- ・ 運営事業 ①使用済み紙おむつの回収
② ペレット燃料の製造
③ 製造施設、ボイラー等の通常メンテナンス
④ ごみ焼却熱回収のモニタリング
- ・ 熱利用事業
① 使用済み紙おむつの供給
② ペレット燃料のボイラー給湯利用

◇紙おむつ燃料化事業の流れ

- ① 福祉施設から回収した「使用済み紙おむつ」をごみ焼却の排熱にて乾燥・滅菌したうえでペレットを製造
- ② 製造したペレットは、介護福祉施設の給湯熱源に利用

- ③ 15 年間の事業運営を公募で選定した(福)十日町福祉会に委託し、実用化に向けた実証実験を行う
- ④ 介護者扱いの廃棄物を新たなエネルギーとして利用するものであり、先進的かつ循環型社会形成の手本となる事業と言える

◇その他の取組み

- ①12 の公共施設への太陽光発電設備の導入 100Mwh/年の発電量
- ②環境価値(非化石証明)購入 800Mwh
- ③ 太陽光発電設備等の再エネ導入補助支給 10 万円/kw の補助
- ④ 地中熱・太陽光の再エネ設備を「道の駅ふるさと会館」に導入
- ⑤ 下水熱で道路融雪・保育園の空調に利用

◇まとめ

十日町市の使用済み紙おむつの燃料化実証実験は、ペレット燃料の製造工程において、紙おむつの乾燥・滅菌に化石燃料を使わず、ごみ焼却施設の余熱を利用する特色的な取組の実証事業となっている。

また、設備導入時に経済産業省の補助金を活用されていて、その補助要件でペレット製造に際し「バイオマス依存率 60%以上」を確保する必要があります。

紙おむつの回収は、本市でも可能かと思いますが、安定した木質チップ(間伐材が原料)の確保は、本市では難ありと感じました。

・ 7 月 5 日(金) 11:30~12:30

・ 石川県金沢市「石川県立図書館施設見学について」

・ 対応者：堂前(図書館施設職員)

◇石川県立図書館:100 万石ビブリオバウム 令和 4 年 7 月 16 日会館

- ・ 地上 4 階・地下 1 階で、円柱ドーム型造り
- ・ 設計者 仙田 満 氏 ・ 広島市のマツダスタジアムの設計者でもある
- ・ 110 万冊中常時 30 万冊・500 の閲覧席

◇施設内

- ・ 1F
 - ・ 本との出会いの窓
 - ・ 里の恵み・文化の香り
 - ・ 石川コレクションコーナー
 - ・ こどもエリア
 - ・ カフェハムアンドゴー
- ・ 2F
 - ・ 企画展示コーナー
 - ・ モノづくり体験コーナー
- ・ 3F
 - ・ 窓辺の席 or ブリッジ(吹き抜けを眺めながら、ゆっくりと読書が楽しめるスポット)
- ・ 4F
 - ・ リングになっていて一周 160m の円形回廊で、円形の閲覧空間

を一望できる

- ※ 「セルフ貸出機」「利用者カード:利用者登録機」「本の探し方」検索機操作で 1F～4F どこに希望の本があるか場所が分かる。
- ※ 途中で迷ったら BOOKNABI でレシートをかざすとマップで現在地と本の位置情報が示される。

◇まとめ

開館約 2 年で、円形閲覧空間ドーム状の 4F 造りとなっていて、図書館に入って天井を見上げるとフラッグが加賀五彩を用いて東西南北の方角を表示している。

また、通路や家具も同様に色分けしてあり分かりやすい。

本の並べ方にも特徴があり、身近で馴染み深い 12 のテーマを設定して、本も表紙が通路からすぐにわかるような感覚で、本との出会いを楽しめるように並べてありました。

ゆっくり、のんびりと読書するスペースとしては立派すぎると感じました。

以上

支出書

01-002

(1/2)

日付	令和 6 年 10 月 20 日	支出額	29,845 円
項目	調査研究費	充当額	29,845 円
細目	出張旅費	按分率	
支払先	別添のとおり		
摘要	令和 6 年 10 月 30～31 日姫路市へ出張旅費		
備考			

支出書

01-002

(2/2)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領収書

(会派名) 誠友会

2024年10月1日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

¥29,845

但, 10月30日~31日姫路市
への出張旅費

[内 訳]

上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	8,845円	
日 当	6,200円	
宿 泊 料	14,800円	
()	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 稲葉誠一郎

領収書 No.

1-2

研究研修・調査報告書

会 派 名	誠友会	報 告 日	令和 6 年 11 月 10 日								
代 表 者	稲葉誠一郎 	報 告 者	稲葉誠一郎 								
参 加 者	稲葉誠一郎										
実 施 日	令和 6 年 10 月 30 日～令和元年 10 月 31 日										
研究研修・調査等の場所	姫路市中央卸売市場										
目 的	市場の運営について										
研究研修・調査等の概要											
視察時間 令和 6 年 10 月 31 日午前 5 時 30 分～9 時 30 分											
説明者 姫路市中央卸売市場（新市場）											
<table border="0"> <tr> <td>場長</td><td>藤原行孝樹</td></tr> <tr> <td>福場長</td><td>尾関正弘</td></tr> <tr> <td>業務担当課長補佐</td><td>宮本政男</td></tr> <tr> <td>係長</td><td>菅原 崇</td></tr> </table>				場長	藤原行孝樹	福場長	尾関正弘	業務担当課長補佐	宮本政男	係長	菅原 崇
場長	藤原行孝樹										
福場長	尾関正弘										
業務担当課長補佐	宮本政男										
係長	菅原 崇										
開設	開場日 令和 5 年 3 月 13 日										
規模等	敷地面積 69,419.71 m ²										
	卸売場棟（鉄骨 2F）	21,777 m ²									
	管理棟（鉄骨 2F）	2,901 m ²									
	運送事務所棟（鉄骨平屋）	553 m ²									
	廃棄物集積等（鉄骨平屋）	553 m ²									
卸売業者等											

青果（令和 6 年 9 月 1 日）

卸売人 1 社

仲卸人 6 社

水産（令和 6 年 9 月 1 日現在）

卸売人 2 社（塩干含む）

仲卸人 6 社

売買参加者 7 社

取引高（平成 29 年）

青果市場	野菜	（145, 649 トン）	25, 955, 995 千円
	果実	（23, 338 トン）	8, 190, 080 千円
	加工品	（1, 687 トン）	234, 915 千円
魚類市場	鮮魚	（21, 014 トン）	12, 701, 994 千円
	冷凍魚	（1, 369 トン）	1, 223, 325 千円
	その他	（2, 203 トン）	2, 323, 869 千円

平成 24 年に新市場開場に向け、市場の在り方の検討を開始し、平成 26 年に運営協議会が提言書を提出。平成 27 年には経営戦略と基本計画を策定し、同年 8 月に運営協議会が姫路市へ申し入れをされている。同時に、白浜地区への移転再整備の方針が決定されている。移転用地の土壌汚染の課題もある中、場内事業者との対話などを解決し、令和 5 年に新市場を開場されている。

中央卸売市場と地方卸売場市場の違いはあるが、備後地方の食材供給のためには必要不可欠な福山市場の再整備を早急に策定し、計画的な長期運営に取り組む必要が有る。

支出書

01-003

(1/8)

日付	令和 7 年 3 月 31 日	支出額	495,740 円
項目	調査研究費	充当額	495,740 円
細目	出張旅費	按分率	
支払先	別添通り		
摘要	3 月 24 日～3 月 25 日 越谷市・千代田区へのお出張旅費		
備考			

支出書

01-003

(2/8)

別紙

領 収 書 添 付 用 紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 稲葉誠一郎



領収書 No.

1-3

支出書

01-003

(3/8)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 岡崎正淳



領収書 No.

1-3

支出書

01-003

(4/8)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 能宗正洋



領収書 No.

1-3

支出書

01-003

(5/8)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 小島崇弘



領収書 No.

1-3

支出書

01-003

(6/8)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 田口裕司



領収書 No.

(-3)

支出書

01-003

(7/8)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 大村展正



領収書 No.

1-3

支出書

01-003

(8/8)

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No.

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 誠友会

2025年 3月 27日

(代表者) 稲葉 誠一郎 様

70,820

但、3月 24日～ 25日

埼玉県越谷市、東京都千代田区出張旅費

上記正に領収いたしました

[内 訳]

	金額	摘要
交 通 費	¥49,820	
日 当	¥6,200	
宿 泊 料	¥14,800	

(会派名) 誠友会

(名 前) 貝原大和

領収書 No.

1-3

研究研修・調査報告書

会派名	誠友会	報告日	令和7年 3月 31日
代表者	稲葉誠一郎 	報告者	田口裕司 
参加者	稲葉誠一郎、岡崎正淳、能宗正洋、小島崇弘 田口裕司、大村展正、貝原大和		
実施日	2025年 3月 24 日 ～ 2025年 3 月 25 日		
研究研修・調査等の場所	越谷市役所、越谷いちごみらい園（埼玉県越谷市） 衆議院第一会館（東京都千代田区）		
目的	3月24日越谷市トイレトレーラーについて 3月25日東京都千代田区 中学校の運動部活の地域移行について		
作成者：田口裕司 日時：令和7年3月24日（月）13時～15時 場所：越谷市役所→越谷いちごみらい園 担当者：危機管理官 湊谷達也氏 消防監 川島知幸氏 視察テーマ：トイレトレーラーについて 災害時におけるトイレの問題に対応するためのトイレトレーラー活用について説明頂きました。 トイレトレーラー概要 トイレ4部屋、清水タンク容量390L、汚物タンク690L 使用回数で1500回程使用できる 車両総重量で3470kg 越谷での使用実績はイベントでの展示やいちごハウスで長期の貸出と、石川県への災害派遣として利用されたそうです。 導入費用は令和3年時点で約2000万、けん引装置58万となり毎年必要となる費用は約12万ほどかかる。 緊急防災・減災事業債を活用して自治体負担は30% クラウドファンディングを活用して導入している自治体もある。			

職員4人がけん引できる資格を取得している。

現在トイレトレーラー導入自治体は27ほどあり、災害派遣トイレネットワークがあり、災害情報などを共有して被災地支援を出来る体制が整えられている。

埼玉県では越谷がはじめて導入しており話題になった。

現在は様々なトイレトレーラーが出来ており、費用なども当初に比べてかなり下がっているようである。

被災時の訓練もかねて通常時でも貸し出しなどを積極的におこないしっかり利活用できるとイベントなどでトイレに困っている場合でも重宝される。

トイレトレーラー以外にも被災時のトイレ対策は考えており備蓄トイレなどいろいろな準備をしている。

石川県に派遣した時は地元の方に大変喜んでもらえた。

トイレトレーラーは、災害時におけるトイレ問題の解決に有効な手段の一つです。平時においても活用することで、導入費用や維持費用を抑えることができ、災害発生時には迅速な対応が可能となります。本市でも災害時の対応の一つとして参考になりました。

作成者：貝原大和

日時：令和7年3月25日(火) 午前10時00分～11時15分

場所：衆議院第一会館

担当者：スポーツ庁地域スポーツ課 文化庁参事官(芸術文化担当)

地域スポーツ課 課長 大川晃平氏

地域スポーツ課 課長補佐 竹河 信裕氏

基調講演題目

部活動の地域連携・地域移行と地域スポーツ・文化芸術環境の整備について

概要

スポーツ庁の担当者より、「部活動の地域連携・地域移行」と「地域スポーツ・文化芸術環境の整備」について説明を受け、意見交換の機会をいただきました。今回の視察では、国の制度設計や移行の背景、実証事業の進捗状況など、現場に即した具体的な取り組みも共有いただきました。制度の全体像を俯瞰するとともに、本市として取り組むべき課題と可能性を整理する貴重な機会となりました。

内容と所感

今回の視察では、少子化と教職員の働き方改革を背景に、中学校の部活動を学校から地域へと移行させる国の方針について、制度の経緯や今後の展望などを丁寧にご説明いただきました。

特に印象に残ったのは、今後10年間で中学生の人口が約2割減少するという見通しです。これまでのように学校単位で部活動を運営する体制は、人的・物理的に維持が困難となっていくことが現実味を帯びており、国としても地域に軸足を移した新しい体制づくりが急がれています。

また、部活動が教職員の長時間労働の一因となってきたことも指摘されており、教員が本来の教育活動に集中できる環境を整えるという観点からも、地域移行は重要な課題とされています。まずは休日の部活動から段階的に地域に移す方針で、平日については今後の検討課題とされているとのことです。令和5～7年度は「改革推進期間」と位置づけられ、全国各地で実証事業が展開されています。

「地域の子どもは地域で育てる」という言葉が何度も強調されていたことがとても印象的でした。これは単なる部活動の再編にとどまらず、地域が子どもの教育に責任を持つという新しい社会のあり方を象徴していると感じました。

本市においても少子化の影響により、特に中山間地域では既に部活動の継続が困難になっている学校も少なくありません。また、地域への移行にあたっては、指導者の確保、運営主体の明確化、保護者や地域住民の理解促進など、実務的な課題が山積しています。竹河氏からの情報として、地域移行が成り立つまでに、3年間は必要とのことです。それは、丁寧な構築時間に加え、3年という月日により、人の入れ替わるため、受益者負担の相場やルールが当たり前になることも大きな要因です。一方

で、部活動には教育的意義があるという認識も根強く、「地域に任せて大丈夫か?」「教育との接続が失われないか?」といった不安の声も少なくありません。外部指導者の「質・量・継続性」をどう担保するかは、地域移行の成否を左右する鍵であり、報酬や評価のあり方など、インセンティブの設計が必要不可欠です。

こうした中、私は視察の場で一つの提案をさせていただきました。それは、「地域の進学塾や学習支援事業者が、部活動の現場に協力しながら、自塾のPRにもつなげる」というスキームです。塾の先生方は「教えるプロ」であり、生徒との信頼関係を築く力にも長けています。部活動という自然な場面での関わりを通じて、子どもたちにとっては新たな「頼れる大人」が増え、進路や勉強について相談できる機会も広がります。塾側にとっても地域への貢献が評価され、単なる広告とは異なる意味のあるPRとなります。加えて、学区内のほとんどの地域に塾は存在しており、全国展開するスキームとしては再現性が非常に高いと考えます。今後は、本市内にあるスポーツ団体、文化団体、大学、民間企業などと連携を深め、地域全体で子どもたちの成長を支える仕組みを整えていきたいと考えています。

今回の視察で得た学びをしっかりと持ち帰り、本市における部活動の地域移行が円滑かつ効果的に進むよう、引き続き現場の声を聴きながら取り組んでまいります。